

ひろば大代

NO.287

大代公民館

H 15.6.23

子供みこしを

いただきました



先日、東京石見高山会の米原光義様から、りっぱな子供みこし一基を贈って頂きました。これは大代町の子供達にお祭りや行事に参加した思い出を大切にして、ふるさとを忘れないようにとの思いから贈ってくださいました。大切に活用したいと思えます。

大代町の皆様へ

東京 米原光義

拝啓風薫る初夏の訪れが参りました。皆様にはご健勝の事とお慶び申し上げます。さて本日、お約束のお神輿一基

ふるさとの
良き思い出を
大切に

を贈らせて頂きます。

近年は子供さん達も少ないとか、老人会の皆様共々一緒に楽しんで頂きたいと思っております。子供さん達が社会人となりお祭りでお神輿をかついだ事、その他ふる里の良き思い出を大切にしながら父母に感謝し、頑張つて下さる事を願っております。又私の意とする所です。

早速七月のお祭りに楽しんで下さい。

今秋道路の開通式には是非帰郷致し、子供達

さん達が元気でお神輿をかつぐ姿を拝見致したいと思っております。

皆々様方の益々のご健康とご多幸を祈念申し上げます、御通知方々一筆まで

敬具

十五年六月五日

感動「ひろば大代」



大田市 原田萬里

毎月郵送される「ひろば大代」を楽

しく読んでいます。殊の外添書（季節の便り）の筆書きは大代の瞬間的な現実が表現されていて感激しています。

今日も五月分が届き、添書きに大代の風景や、ギフチョウのことが書かれていて懐かしさを感じました。

今月号は雨中の大江高山登山について特集されていて、読む中に息詰まる思いや、目に感涙を覚えました。

参加者は地元以外からが多く、情報伝達の進歩を考え、八十才を越えながらも登山された静間町の老女の方には頭が下がりました。大方の参加者は口を揃えて地元の方々が登山道の草刈や安全に配慮されていることに感謝されている様子を伺い知ることも出来ました。

私も大江高山の麓に生まれ育ちながらも、貴重な動植物の存在すら知りませんでした。無知とは悲しいですね。自然の宝庫大江高山を大切に保全していただくことを祈ります。

雨のぬかるみの中、歩くのが大変のようでしたが、山口県自然観察指導員の助言のように簡易階段設置は必要で

しょうね。

「思いつくままに」の飯田徹さんの文書は何度も繰り返し読みました。控え目な表現の中に、行間には溢れんばかりの情熱を読み取ることができました。有難うございました。

古い大代の歴史と先人の思いを両肩に荷負い、次世代へ受け継ぐ役目を自覚されているふる里の若き人々にエールを贈りたいと思います。

私も退職してから、山田側頂上でのキャンプや、元旦に飯谷側からの早朝登山等思いつく深い経験を懐かしく思い出しています。

大代小学校に赴任して

大代小学校校長 川神厚子



この大代の地に赴任して約三ヶ月が過ぎようとしています。毎日、井田からの道を通っていますが、自然の素晴らしさには目を見張るものがあります。

美しい緑、沿線に咲くきんけい菊、しょうぶ、タイサンボクの花、色とりどりのあじさい等丹精をこめ育てられ

た花々、その中を吹くさわやかな風、

その心地よさは何物にも代え難いものです。こんな土地だからこそイズモコバイモも育ち、ギフチョウも生息するのだと思います。

ふる里を愛し誇れる人間に育ってほしい

子どもたちがこのよう

な『ふるさと』を愛し、

誇れる人間に育って欲しいと願っています。また、

本年度は研究のサブテーマとして『自信をもって

表現する子』を設定しました。将来、中学校や高

校に行っても、社会に出ても、臆することなく意

見を述べ、自己表現できる人になってもらいたい

という思いをこめています。地域を活性化する人材に

成長してくれることを夢見

ています。どうぞ地域でも

子ども達に声をかけてやっ

てください。質問されたことにきちんとこたえることができるでしょうか。

私はこんな素敵な校舎で勤務できる

ことを実に嬉しく思っています。二十

五人の児童たちには広過ぎるぐらい立

派な校舎です。もしお暇があればどうぞ小学校にお立ち寄りください。

そして、我が子の、孫の、お隣の子

どもさんの様子を見てください。私も、職員にも、地域の様子や昔話など

お聞かせ願えれば本当に嬉しく思います。

今後とも、本校へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

第12回関西高山会

総会を終わって

事務局長 木村滋男

胸襟を開いて語れる友のあることは幸せです。

いつでも帰れるふる里のあることは幸せです。

永遠に忘れられないふる里に幸あれ

(恩師 原田萬里先生作)

総会が六月八日(日)ホテルアウイナ大阪で行われました。今年はいベントとして大代町の近況のスライド

①ふる里のミニ物産展

②ふる里のミニ物産展

③ふる里のミニ物産展

④ふる里のミニ物産展

⑤ふる里のミニ物産展

⑥ふる里のミニ物産展

⑦ふる里のミニ物産展

⑧ふる里のミニ物産展

⑨ふる里のミニ物産展

⑩ふる里のミニ物産展

⑪ふる里のミニ物産展



② 大代町の美味しいご飯と他の町のご飯の味くらべ

等を企画し、総勢六十人の出席のもと、盛大かつ和やかに行なわれました。

会は12時から田中会長の挨拶で始まり、議事も無事終わり、来賓の祝辞を横手大代高山会会長、田辺大代連合自治会会長、楠東京石見高山会会長、木村市議会議員、今田大代婦人会会長より戴きました。

一部の総会の終りに大代町の近況のスライド報告を横手高山会会長にしていただきました。久しぶりに見る大江高山の雄姿、新しく出来た大代小学校前の県道バイパスのさつき文字、懐かしい雪景色、初めて見るギフチョウ等大変好評でした。

第二部懇親会は田辺堅司さんの司会で行われました。今年は趣向を凝らし、できるだけ卒業年度毎の班編成とし、皆で楽しめる懇親会を心掛けました。出席者の自己紹介が始まり、各テーブル毎に童謡を歌うことにしました。

里の秋、この道、青い山脈、旅愁、早春賦、みかんの咲く丘等、初めはぎこちない歌い方でしたが、田辺さんの

名司会により班が進むにつれ、うまくなり、一番、二番：とマイクを持ち回りで歌う班もあり大変楽しく盛り上がりしました。

その後、それぞれのかくし芸もあり、最後に安来節を大代町からの出席者の有志の皆さんの美声で歌っていただき、トリは横手大代高山会会長の音頭で安来節の替え歌（原田萬里先生作）を出席者全員で歌い、懇親会は最高潮に達しました。

ファイナーレは「故郷」
「兎追いし かの山……」を皆で合唱し、東京から出席の田中前東京石見高山会会長の万歳三唱で懇親会を終りました。

ふる里のミニ物産展は大変好評でした。ふる里の味、ふる里の産物、大変懐かしく心なごむ物産展でした。

準備された大代町の婦人会他住民の皆様本当に有難うございました。心よりお礼申し上げます。

来年の総会は六月十三日を予定しております。皆様が出席してよかったです。思っ頂けるような、そして次回も是非出席しようと思っただけのよ

うな私達のふる里である大代町と色々な面で交流が図れる関西高山会になるよう役員一同頑張っています。今後ともよろしくご支援をお願い致します。

関西高山会総会に出席して

本郷 室田佑子



「大代で育っていないし、関西高山会には知り合いもいないので楽しくないのでは？」と思いつながら、主人と関西高山会に出席しました。会場に着くなり、そんな思いも吹き飛びました。以前から知り合いだったような雰囲気です。迎えて下さったからです。

会の始まる前、十一時過ぎから、大代から持参した特産品、ふきの佃煮、梅しそ巻、梅肉、竹炭、手作りこんにやく、昔ながらのよもぎ餅、健康茶、はちく、大田のストかまぼこ等の販売が始まりました。皆さんに懐かしんで買っただけ、有難うございました。ストかまぼこは大阪には無いそうで、百本がすぐ完売でした。

懇親会では「ようきんさつたなあ」と田舎の言葉も出たり、皆さんの田舎に対する情熱を感じました。会を持続するためには、若い人達にもたくさん出席して頂いたらいいなと感じました。「来てよかった。又、来たいなあ」と思いながら帰りました。

有難うございました。

関西高山総会に、ふるさとの物産を11品、568点を持参致しましたところ、たくさん購入して頂きました。有難うございました。

参加されました方から、「品物の味」「値段」「ふるさと大代への希望意見」などを寄せて頂きましたので、ご紹介します。

◎ 手作りの柚子味噌を、里の梅肉の容器に入れて販売したらどうでしょう。
◎ もちのあんこ、昔食べた時と同じ味がしました。

◎ どの物産も作り方があればうれしいのですが。

◎ ふるさとはいくつになっても思い出します。家や兄弟がいなくても泊まれるところがあるでしょうか。

◎ 西条柿のつるし柿が、冬になると食べたくくなります。

◎ ヘルシーでとつてもおいしいです。

◎ 都会地のスーパーの価格に比べるとやや高いと思いますが、美味しいので妥当な値段と思います。高いか安いかでなく、品物の品質と値段が合っていると感じられればそれで良いと思います。

◎ ふるさとミニ物産展は、昔懐かしい味を楽しめてすばらしい企画だと思いました。毎年期待します。

◎ 高いとか安いとかは個人によって異なると思いますが、昔懐かしい味覚は最高でした。

◎ 関西の友達の中でも評判が良く、今回も注文頂いてきました。

◎ 手間がかかっているのに、安くして頂いて有難うございます。

虹

先生 ありがとうございます

関西高山会副会長 中本 弘

先生は私が小学校六年生の時の担任

でした。それ以後約半世紀の間、出会いがありませんでしたが、第八回関西高山会総会で原田萬里先生とお会いしました。

この時の出会いをご縁にして先生のすばらしい全人格に直接に触れている者のひとりであります。

先生は、関西高山会はもとより、公民館が発行する「ひろば大代」婦人会だよりの「あすなる句会」を通じて、俳句、詩歌などをこよなく愛されていることを知りました。

ふる里のあることは幸せです

今回第十二回総会にも「胸襟を開いて、語れる友のあることは幸せです。ふる里のあることは幸せです。ふる里に幸あれ。」この詩に先生のふる里を愛される情熱がぎゅっしり詰めこまれています。

私ども関西高山会では総会にその詩歌を掲げました。また参加された人、欠席された人には一人ひとりに、パンフレットの裏面に大江高山をバックにしてこの詩歌を印刷しお送りしました。また、先生が大代小学校担任時代「五

十年前の子どもたち」の写真集を送り
いただき会場に展示したところ、出席
された方々がそれを見て、一言「なつ
かしい」と口々に言われ、中には涙さ
えうかべられた人もおられました。そ
れを見て、私はこの一つだけでも総会
に持参してよかったなど感激しました。
懇親会では、先生の作詞された安来
節を横手公民館長をはじめ今田婦人會
長、田辺顧問様がすばらしい節まわし
で披露されました。

このようにすばらしい先生にお会い
出来たことは、私にとってこれほどの
冥利に尽きるものはありません。

「大江山吾を育み笑いけり」

私は、大江高山をバックにして新し
い小学校校舎の入った一枚の絵はがき
を宝物のひとつとしています。

この欄は皆さんの自由投稿欄です。皆
さんの原稿を待ちしております。

ササ刈りと春植物について

島根県立三瓶自然館

学芸員 井上雅仁

私達の大江高山講座 第四回

先月の“ひろば大代”で
お話ししたミスミソウや
イズモコバイモ。登山道
沿いで点々とみられまし
たが、とくにササの刈っ
てある場所でよく目につ
いたように感じます。同
じような場所では、いろ
いろな種類のスマレも咲
いていました。反対にサ
サが覆っている場所では、
これらの花を見かけるこ
とは少ないようです。

植物の生長には、水や
養分のほか、光が必要不
可欠です。春先、落葉樹
が葉を広げるまでの間は、
短い期間ですが林内にた
くさんの光が降り注ぎます。

先に述べた植物たちはこの光を利
用して、短い間に花をつけたり養分を
蓄えたりします。その可憐さとはかな
さから、スプリングエフェメラル（春
の妖精）と呼ばれることもあります。

反対に常緑樹やササが繁茂するよ
うな場所では、地表付近に光が届きに

くいため、これらにとってあまり都合
がよくありません。

かつての山林では頻繁な下草刈り
や伐採により、明るい環境が保たれて
いたと思われれます。いわゆる里山と呼
ばれる林です。近年では管理が行き届
かず下草の繁茂した山林が多くなって
いるようです。

そのような中、登山道管理のための
ササ刈りが、結果的にこれらの植物の
生育に適した明るい環境をつくりだし
たといえるでしょう。

お知らせ

◎大代公民館より

▲お礼

先日、公民館周辺の草刈奉仕を寿會
の皆様にしていただき、大変きれい
になりました。有難うございました。

▲パソコン初級者

講習会のお知らせ

公民館では初級者の方を対象に I
T講習会を次の日程で開催いたしま
す。参加費無料です。先着各々 10 名

◎日時 7月10日・11日

午前9時～午前12時

◎日時 7月14日・15日

午後7時～午後10時

場所 大代小学校屋体ミーティングルーム
申込締切り 7月7日(月) 公民館迄

* 7月行事予定 *

▼5日(土) まなび大学ダイヤゾーン

▼15日(火) さくらんぼ教室

▼19日(土) まなび大学
 グラウンドゴルフ

▼23日(水) 連合自治会

▼29日(火) まなび大学子供会

○大代地区社協より

川上 角 武典 様

(三月にご寄付頂きましたが、掲載

が遅れて申し訳ありません)

下飯谷 高村 清 様

下飯谷 和田 博 様

川上 木下イツコ様

それぞれ香典返しにかえ金一封のご
寄付を頂きました。厚くお礼申し上げます。

四月十二日、開催しました高山登山
会でのミニ講演記録を二回に分けて掲
載致します。

みんなで高山の

ギフチョウを保護しよう

大田町蝶遊会代表 伊藤 宏

おはようございます。

私は、大田町に住んでおります、チ
ョウチョの大好きな伊藤と申します。
大田市のチョウチョはすべてわかりま
す。どこに何時行けばおるか皆わかり
ます。40年間チョウチョと遊んできま
した。ですからチョウチョと遊ぶ会「蝶
遊会」を作っております。

今、ギフチョウが一番たくさんいる
ときです。この大江高山のギフチョウ
を、わたしは20年前に登って見ました。
びっくりするほどたくさんいました。
こんなにたくさんいるところは全国で
他にありません。本当にすばらしい山
です。

ギフチョウは日本にしかない蝶

の一つです。産地は山口県から秋田県
まで数多くありますが、どの産地でも
非常に少ない蝶です。

ですから、国の絶滅危機種に指定さ
れていますが、本当に我々蝶の仲間か
らみますと、先ず春一番に会いたい蝶
です。「春の女神」と言う名をつけてい
るぐらい、きれいな小型のアゲハチヨ
ウの仲間です。この山に何でこんなに
居るのか。それは簡単、幼虫が食べる
エサ、食草がたくさんあるからです。
カンアオイの仲間の植物を食べます。
それがたくさんこの山にあります。数
も多いし、株も大きいですから、幼虫
のえさがたくさんある、だからチョウ
チョウがたくさんいると言うのが、この
山の現状です。

桜の花とともにギフチョウは山に
帰ってきます。この桜の花が咲いて天
気の良い日に登れば、必ずたくさん見
られます。先ずオスが出てきます。ギ
フチョウの雌は可愛そうに一生に一度
しか交尾をしません。交尾をしたら、
交尾できなくなるからです。そんな面
白い性質を持った蝶です。交尾して産
卵します。カンアオイの葉の裏に10個

くらいの卵を産卵します。

24、5日したら、卵がかえて小さな黒い毛虫が出て来ます。終令幼虫になり2センチ5ミリくらいの黒い毛虫になりますと、すごい量のえさをすごい勢いで食べます。エサが多くなると幼虫がさなぎになれないのです。充分えさを食べないと、羽化するときに奇形になります。ですから終令幼虫の時に食べるエサがないと、その場所にたくさんさんのギフチョウが出てこないのです。

終令幼虫が5月の終わり頃、さなぎになって夏を越し、秋、越冬状態もさなぎです。そして桜とともに高山に帰ってきます。それがギフチョウの一生です。この山には我々チョウの好きな人間にとっては、ギフチョウに関しては夢のような山です。

月曜日に登ったのですが、恐らく日曜日にはじめての発生があったと思います。オスだけしかいなかったから、それでも27、8頭のギフチョウを見ましたから、今日も天気でしたら百頭以上ギフチョウを見ることは必ず出来ま

す。今日は登りたいです。
大代町は地域あげて保護活動に取

組んでおられます。大変有りがたいこととです。今日こうして皆さんたくさん来ておられますが、今日、もし登ってギフチョウや植物を見て、その美しさを感動として持ち帰られましたら、その感動とともに、保護活動を大切さを誰かに伝えてください。そのことが保護活動を大変助けることになりますので、皆様をお願いしておきたいと思

います。
植物の事につきましては、三瓶自然観の先生がきておられますので、これから話していただきます。それでも雨がやまない時には、私が三瓶でやって来ましたウスイロヒヨウモンモドキの保護活動についてお話しします。

大江高山にあるからこそ

大切にしてほしい

島根県立三瓶自然館

学芸員 井上 雅仁

初めまして、三瓶自然館で働いてい

ます井上と申します。今日は大江高山の植物のすばらしさを少しでもお伝えできればと思います。

大江高山は大江高山火山群の主峰で、火山学的にも重要な地域です。三瓶山も同じ火山ですので、非常に身近な感じを持っています。

さて、先ほど話のありましたカンアオイの仲間ですが、ギフチョウの食草としてよく知られています。今日登られる皆さんはご覧頂くことができますと思いますし、葉にきれいな斑が入り鑑賞用にも用いられているので、ご存じの方もいらつしやるかと思

います。
カンアオイの仲間の花というのは、葉の付け根あたりで、地面の方に向かって咲きます。地中に咲く花とも表現されます。種子ができて、その場に落ちることが多いようです。

植物というのは動かないと思われがちですが、種子を飛ばすことで、たとえばタンポポですとわた毛をできるだけ遠くへ飛ばすことで、自分の住む所を広げようと努力をしています。そういう意味では、カンアオイの仲間というの

いえません。そのかわりに大きな種子をつけて、自分の足元でゆつくりと広がっていきます。

大江高山は、今から二百万年前に火山活動が始まったといわれています。大江高山ができて、歩みの遅いカンアオイの仲間が、ゆつくりと大江高山の方へ住む場所を広げてきました。

ですから今、生育している個体は、これまでの歴史の中で、ゆつくりですが地道に住む場所を広げてきたものです。そのため、今あるカンアオイを採ってしようと、次にその場に戻ってくるのは何年かかるかわかりません。

ギフチョウが食べているカンアオイ、鑑賞用に採られることも多いのですが、今ある姿をそのままにしておいて頂きたいと思います。

あと大江高山を特徴づける植物を二つ上げてみたいと思います。皆さん恐らくご存知だと思いますが、ミスミソウ、そしてイズモコバイモという植物があります。ちょうど今、花をつけている時期です。

島根県からレッドデータブックという本が出ています。一九六六年に

UCNという国際的な機関が世界で絶滅の恐れのある生き物をリストアップした本を出しました。その本の表紙が赤い色をしていたので、レッドデータブックと呼ばれるようになりました。島根県版は一九九七年に作られています。

その中でイズモコバイモは緊急保護種、このままでは絶滅の恐れのある種類にあげられています。ミスミソウは要保護種にあげられています。

ちなみにイズモコバイモという植物は、出雲という名前がついています。島根県にしか生育していません。また生育している場所も、県内の数カ所だけです。

ですから、たとえば大江高山にあるイズモコバイモのグループが無くなってしまうと、地球上からイズモコバイモという植物が消えてしまう可能性がすごく大きくなってしまいます。それくらい大事なイズモコバイモの個体群があります。

盗掘にあうことも多く、危機的な状況にあると考えるもらってかまわないと思います。イズモコバイモは花を咲

かせるまでに六年位かかるといわれています。種子が地面に落ちて、一年目、ほんの小さな糸のような葉が付きまします。春、他の植物が葉を広げない期間、短い間ですが地上にたくさんの光がふりそそぎます。その間に光合成により栄養を蓄えます。それをだいたい五、六年繰り返します。毎年ちよつとずつですが、一年目の葉より二年目の葉、二年目の葉より三年目の葉と、少しずつ大きくなります。そういうことを毎年繰り返して、五年から六年すると、今日登って見られるといいのですが、花をつけることができず。ミスミソウもこの時期に花をつけて、次の子孫を残そうとします。ギフチョウと同じように、「春の妖精」「春の女神」という美しい名前もついています。今日、ぜひ皆さんにそういった植物を見て頂ければと思います。かわいい花が咲いていて家にもって帰りたいと思う人もいるかと思いますが、「野にあるからこそ、大江高山にあるからこそ大事なのだ」という気持ちをもつていただければと思います。

